2024年度
第4回業務委員会
資料№8-1

（資料提出日：12月5日）
2024年12月11日
ENEOSグローブ株式会社

事業用原料の需給・価格動向について（海外マーケット動向）

1.当面の原油動向

■ドバイ原油の動き

1．11月下旬までの直近1ヶ月の油価の動き　：　71～74ドル／BBL

（1）地政学的リスク（⇧⇩）

イスラエルは10月26日、イランの軍事施設を標的に報復攻撃を実施。一時危惧されたイランの核・石油関連施設への攻撃ではなかったことで、事態の更なる悪化からは遠のいたとの市場の受け止め。

一方、ロシア・ウクライナ情勢は、停戦交渉が視野に入り、新たな段階に突入。

（2）25年原油需給緩和見通し（⇩）

中国景気減速・脱炭素方針も堅持の中、OPEC・IEAとも月報で25年の需要見通しを再び下方修正。OPECプラスが自主減産緩和時期を来年1月まで延期したことで若干和らいだが、今後の需給緩和見通しは根強い。

（3）米国景気拡大期待（⇧）

11月6日米大統領選でトランプ氏が当選。減税・規制緩和が米国景気を押し上げるとの期待感から株価上昇。

2．今後の油価予想　：　（当面1か月は）70～75ドル／BBL（現状ほぼヨコ）

（1）OPECプラス自主減産順守動向と自主減産緩和タイミング（⇨）

現状、25年1月からとしている自主減産緩和方針について、12月の次期総会でどのように調整するかに注目が集まるが 米国シェール油田生産コストも相応に下がっているとされ、サプライズ増産とみる向きは少ない。

（2）地政学リスク（中東／ロシア・ウクライナ情勢）（⇧）

対イラン強硬派のトランプ政権への移行を見据え、制裁強化の見立てが強まる可能性あり。

また、ロシア・ウクライナ情勢も、米英等の許可を受けてウクライナがロシア領を長距離ミサイルで攻撃し、ロシア側も核使用基準を緩和するなど、戦況は激化の様相を呈しており、短期的に供給懸念を生むことも。

ただし、トランプ氏は“戦争終結”を掲げる。

（3）米国・中国景気動向（⇩）

米国経済はトランプ次期政権による関税引上げや不法移民の取り締まり強化等がインフレ再燃を招きかねず。

貿易戦争が世界景気を冷やす恐れも浮上。中国経済は不動産市場等が上向かない限り石油需要喚起は遠いか。

【原油価格推移】

($/BBL)	1StQrt	2NdQrt	10月	11月	12月	3RdQrt	11/27	11/28	11/29	12/2	12/3	12/4	先週比
WTI	80.6	75.1	71.6	69.5	68.9	70.0	68.7	NA	68.0	68.1	69.9	68.5	(▲0.2)
BRENT	85.0	78.5	75.4	73.4	72.6	73.8	72.8	73.3	72.9	71.8	73.6	72.3	(▲0.5)
OMAN	85.2	78.3	74.8	72.6	72.4	73.3	72.2	72.2	72.3	72.0	71.9	73.4	(+1.2)

2.ＬＰＧ（ＣＰ）の動向

12月ＣＰは、Ｐ：＄635、Ｂ：＄630（11月28日通知）

12月CPはプロパン前月＋$635、ブタン同＋＄630と共に前月比ヨコとなったが、AL等価は104％となり前月比で上昇した。CP相場は、11月初旬は弱かったSPOT需要が徐々に高まり、供給にも徐々にタイト感が出てきたことで、前月同水準に落ち着いた。

【ＬＰＧ価格推移（ＣＰ）】

＄／トン

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
プロパン	2022FY	940	850	750	725	670	650	590	610	650	590	790	720
	（ＡＬ等価比）	101%	96%	85%	75%	75%	75%	71%	77%	92%	87%	115%	105%
	2023FY	555	555	450	400	470	550	600	610	610	620	630	630
	（ＡＬ等価比）	84%	79%	79%	64%	69%	75%	76%	80%	85%	93%	93%	93%
	2024FY	615	580	580	580	590	605	625	635	635			
	（ＡＬ等価比）	88%	78%	82%	83%	83%	93%	101%	102%	104%			
ブタン	2022FY	960	860	750	725	660	630	560	610	650	605	790	740
	（ＡＬ等価比）	104%	98%	86%	76%	74%	73%	69%	78%	93%	90%	116%	109%
	2023FY	545	555	440	375	460	560	615	620	620	630	640	640
	（ＡＬ等価比）	84%	80%	70%	60%	68%	77%	79%	82%	88%	96%	96%	96%
	2024FY	620	585	565	565	570	595	620	630	630			
	（ＡＬ等価比）	90%	79%	81%	82%	82%	93%	102%	102%	104%			

【スポット市況】

＄／トン

		1StQrt	2NdQrt	10月	11月	12月	3RdQrt	11/27	11/28	11/29	12/2	12/3	12/4	先週比
ＣＦＲ日本	P	620	645	665	625	615	635	617	619	620	615	613	618	(+1)
	B	614	636	671	625	615	637	612	619	620	615	613	618	(+6)
米国	P	390	382	406	419	414	413	427	NA	NA	NA	416	411	(▲15)
	B	407	441	519	507	491	506	525	NA	NA	NA	493	490	(▲35)
＝参考＝														
極東ナフサ	$/ﾄﾝ	688	672	674	644	628	649	629	628	634	629	624	632	(+3)
タンカー(中東-日本)	$/ﾄﾝ	73	52	60	50	50	53	51	51	51	50	50	50	(▲1)

3.ＬＰＧフレート動向

前月後半に引き続き、船余剰の傾向が見られたことで相場は低水準で推移。中東・インド方面に船（船腹）が集中していることもあり、米国航路に対して割安感が強まっている。パナマ運河では本格的な乾季を控えている現在、昨年を上回る水位を確保できている状況。12月下旬商戦は終盤だが、1月上旬商戦はまだ聞かれておらず、市場での動きは活発ではない。

【参考】トランプ2.0 石油市場への影響

大統領選でトランプ氏が勝利。上下院とも共和党多数となり、今後の米国政策方針転換、特に関税強化、米国孤立主義外交の度合いとその影響が注目される。

原油価格にとり弱気シナリオがベース。米国民のエネルギーコスト低減のため、国内の供給増を後押しすることが予想される他、保護主義的政策により、特に中国の景気減速・石油需要減が油価弱材料に。引き続き、地政学リスクが当面のかく乱要因。

民主党政権からの方針転換（予測）

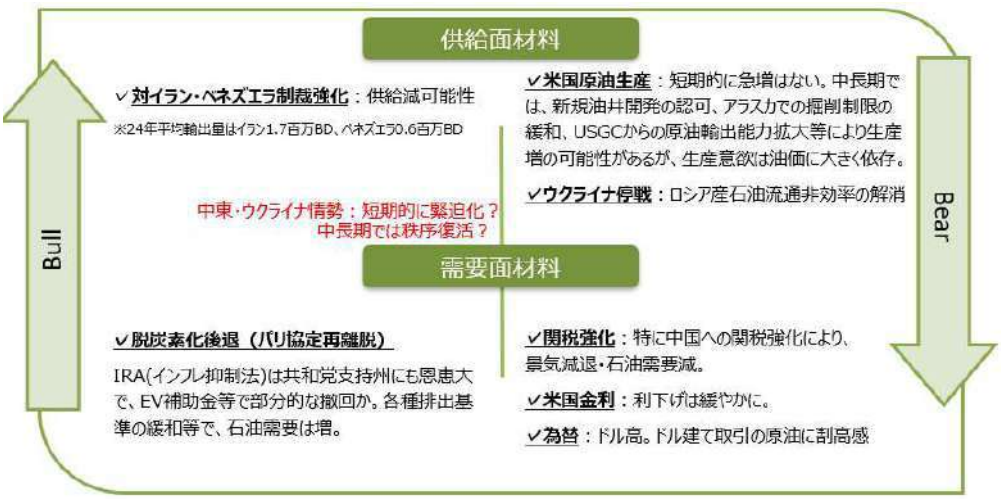
【エネルギー分野】

・脱炭素事業支援縮小・パリ協定再離脱

・新規油井掘削・LNG輸出設備等の承認による、自国産原油・ガス生産促進

・対イラン、ベネズエラ制裁強化？





2024年度
第4回業務委員会
資料№8-2

原 料 価 格 推 移 表

年・月	プロパン価格(円) 10㎥ 小売価格	プロパン価格(円) 10kg 卸売価格	CIF価格(速報・プロパン) 対前月比	CIF価格(速報・プロパン) 円／ﾄﾝ	為替レート 対前月比	為替レート 円／ﾄﾞﾙ	FOB価格(CP・ﾄﾞﾙ／ﾄﾝ) 対前月比	FOB価格(CP・ﾄﾞﾙ／ﾄﾝ) プロパン	対前月比	ブタン	FOB価格(MB・ﾄﾞﾙ／ﾄﾝ) 対前月比	FOB価格(MB・ﾄﾞﾙ／ﾄﾝ) プロパン	対CP
2022年1月			−3,075	88,555	+0.97	115.85	−55	740	−80	710	+69	606	−134
(R 4年)2月	8,436	1,612	+159	88,714	+0.37	116.22	+35	775	+65	775	+72	678	−97
3月			+10,069	98,783	+3.31	119.53	+120	895	+145	920	+64	742	−153
4月	8,558	1,756	+9,412	108,195	+7.45	126.98	+45	940	+40	960	−68	674	−266
5月			+5,646	113,841	+2.83	129.81	−90	850	−100	860	−35	639	−211
6月	8,789	1,758	−7,490	106,351	+5.12	134.93	−100	750	−110	750	−7	632	−118
7月			+1,641	107,992	+2.86	137.79	−25	725	−25	725	−35	597	−128
8月	8,814	1,712	−10,020	97,972	−1.55	136.24	−55	670	−65	660	−25	572	−98
9月			+2,267	100,239	+7.85	144.09	−20	650	−30	630	−54	518	−132
10月	8,819	1,762	−5,866	94,373	+4.10	148.19	−60	590	−70	560	−76	442	−148
11月			+167	94,540	−4.71	143.48	+20	610	+50	610	−166	440	−170
12月	8,850	1,700	−5,498	89,042	−7.39	136.09	+40	650	+40	650	−83	357	−293
2023年1月			−7,032	82,010	−4.74	131.35	−60	590	−45	605	+81	438	−152
(R 5年)2月	8,857	1,634	+7,160	89,170	+2.40	133.75	+200	790	+185	790	−7	431	−359
3月			+4,927	94,097	+1.17	134.92	−70	720	−50	740	−18	413	−307
4月	8,925	1,778	−9,276	84,821	−0.52	134.40	−165	555	−195	545	+8	421	−134
5月			−4,276	80,545	+4.03	138.43	0	555	+10	555	−87	334	−221
6月	8,934	1,500	−3,614	76,931	+3.84	142.27	−105	450	−110	445	−40	294	−156
7月			−7,280	69,651	+0.03	142.30	−50	400	−70	375	+29	323	−77
8月	8,899	1,486	+4,296	73,947	+3.54	145.84	+70	470	+85	460	+28	351	−119
9月			+11,651	85,598	+2.89	148.73	+80	550	+100	560	+33	384	−166
10月	8,932	1,616	+7,827	93,425	+1.87	150.60	+50	600	+55	615	−29	355	−245
11月			+1,747	95,172	+0.35	150.95	+10	610	+5	620	−21	334	−276
12月	9,010	1,644	−1,998	93,174	−5.82	145.13	0	610	0	620	+25	359	−251
2024年1月			−7,475	85,699	+2.52	147.65	+10	620	+10	630	+67	426	−194
(R 6年)2月	8,999	1,660	+7,055	92,754	+2.85	150.50	+10	630	+10	640	+46	472	−158
3月			−57	92,697	+0.17	150.67	0	630	0	640	−56	416	−214
4月	9,057	1,684	+1,838	94,535	+3.84	154.51	−15	615	−20	620	−2	414	−201
5月			+2,278	96,813	+2.74	157.25	−35	580	−35	585	−52	362	−218
6月	9,054	1,648	−2,751	94,062	+1.64	158.89	0	580	−20	565	+33	395	−185
7月			+4,256	98,318	+0.27	159.16	0	580	0	565	+21	416	−164
8月	9,119	1,674	−7,325	90,993	−11.72	147.44	+10	590	+5	570	−26	390	−200
9月			−2,686	88,307	−2.89	144.55	+15	605	+25	595	−50	340	−265
10月	9,105	1,584	+59	88,366	+6.14	150.69	+20	625	+25	620	+66	406	−219
11月							+10	635	+10	630	+13	419	−216
12月							0	635	0	630			

(注) 1. 小売価格は、「経済産業省モニター調査」の全国平均値である。平成15年10月以降は、隔月発表の石油情報センターの資料による。
2. 卸売り価格は、(財)日本エネルギー経済研究所石油情報センターの資料による。(H3．9以降隔月調査に変更)
3. 「CIF価格」は、財務省貿易統計の速報値である。

2024/12/6

一般社団法人　日本コミュニティーガス協会　業務部

〔CIF価格〕

財務省貿易統計

※基準平均原料価格は平成21年4月以降に認可申請又は届出された地点群に適用される値です。

	CIF速報			CIF確報			基準平均原料価格			上限バンド
	数量(MT)	価格(千円)	CIF価格	数量(MT)	価格(千円)	CIF価格	参照期間			(円/t)	(円/t)
2022年1月	873,416	77,345,509	88,555	873,416	77,512,700	88,747	2021年8月	～	2021年10月	80,200	128,320
2022年2月	888,946	78,862,166	88,714	888,946	79,200,115	89,094	2021年9月	～	2021年11月	88,170	141,070
2022年3月	982,993	97,102,956	98,783	982,993	97,125,910	98,806	2021年10月	～	2021年12月	92,220	147,550
2022年4月	679,203	73,486,457	108,195	679,203	73,493,806	108,206	2021年11月	～	2022年1月	92,100	147,360
2022年5月	821,093	93,474,150	113,841	821,093	93,154,492	113,452	2021年12月	～	2022年2月	89,640	143,420
2022年6月	690,584	73,444,345	106,351	690,584	73,377,002	106,254	2022年1月	～	2022年3月	92,450	147,920
2022年7月	553,623	59,786,588	107,992	553,623	59,117,087	106,782	2022年2月	～	2022年4月	97,920	156,670
2022年8月	732,313	71,746,394	97,972	732,313	71,546,158	97,699	2022年3月	～	2022年5月	106,350	170,160
2022年9月	687,977	68,962,268	100,239	687,977	68,606,612	99,722	2022年4月	～	2022年6月	109,590	175,340
2022年10月	571,762	53,958,643	94,373	571,762	54,133,530	94,678	2022年5月	～	2022年7月	109,580	175,330
2022年11月	715,775	67,669,260	94,540	715,775	68,300,974	95,422	2022年6月	～	2022年8月	103,330	165,330
2022年12月	777,909	69,266,669	89,042	777,909	69,266,669	89,042	2022年7月	～	2022年9月	101,130	161,810
2023年1月	960,205	78,746,588	82,010	960,205	80,081,447	83,400	2022年8月	～	2022年10月	97,440	155,900
2023年2月	778,243	69,395,546	89,170	778,243	69,636,631	89,479	2022年9月	～	2022年11月	96,380	154,210
2023年3月	1,107,128	104,177,489	94,097	1,107,128	103,429,358	93,421	2022年10月	～	2022年12月	92,810	148,500
2023年4月	746,302	63,301,784	84,821	746,302	63,332,984	84,862	2022年11月	～	2023年1月	88,150	141,040
2023年5月	627,136	50,512,760	80,545	627,136	50,090,283	79,871	2022年12月	～	2023年2月	86,930	139,090
2023年6月	603,380	46,418,888	76,931	603,380	46,469,635	77,016	2023年1月	～	2023年3月	89,220	142,750
2023年7月	693,698	48,316,880	69,651	693,698	48,910,343	70,507	2023年2月	～	2023年4月	89,820	143,710
2023年8月	671,791	49,676,754	73,947	671,791	49,737,216	74,037	2023年3月	～	2023年5月	87,590	140,140
2023年9月	484,732	41,492,027	85,598	484,732	41,945,490	86,533	2023年4月	～	2023年6月	80,860	129,380
2023年10月	478,781	44,730,307	93,425	478,781	44,556,293	93,062	2023年5月	～	2023年7月	75,290	120,460
2023年11月	760,761	72,403,283	95,172	760,761	71,582,830	94,094	2023年6月	～	2023年8月	73,680	117,890
2023年12月	897,964	83,667,137	93,174	897,964	83,667,137	93,174	2023年7月	～	2023年9月	75,740	121,180
2024年1月	1,018,868	87,315,751	85,699	1,018,868	86,906,148	85,297	2023年8月	～	2023年10月	83,420	133,470
2024年2月	746,103	69,204,342	92,754	746,103	69,241,056	92,804	2023年9月	～	2023年11月	92,160	147,460
2024年3月	744,727	69,033,733	92,697	744,727	68,994,993	92,645	2023年10月	～	2023年12月	93,480	149,570
2024年4月	802,610	75,874,552	94,535	802,610	75,814,469	94,460	2023年11月	～	2024年1月	90,590	144,940
2024年5月	700,345	67,802,427	96,813	700,345	68,101,551	97,240	2023年12月	～	2024年2月	90,040	144,060
2024年6月	549,194	51,658,486	94,062	549,194	51,897,467	94,498	2024年1月	～	2024年3月	89,720	143,550
2024年7月	631,799	62,117,127	98,318	631,799	61,998,925	98,131	2024年2月	～	2024年4月	93,360	149,380
2024年8月	491,715	44,713,167	90,933	491,715	44,696,763	90,900	2024年3月	～	2024年5月	94,590	151,340
2024年9月	512,200	45,230,746	88,307	512,200	45,331,337	88,503	2024年4月	～	2024年6月	95,300	152,480
2024年10月	639,515	56,511,492	88,366				2024年5月	～	2024年7月	96,800	154,880
2024年11月							2024年6月	～	2024年8月	94,820	151,710
2024年12月							2024年7月	～	2024年9月	92,880	148,610
2025年1月							2024年8月	～	2024年10月	89,170	142,670
2025年2月							2024年9月	～	2024年11月		
2025年3月							2024年10月	～	2024年12月		

2024年度
第4回業務委員会
資料№9-1

2024年度業務部報告

1. ガス事業法遵守に向けたフォローアップ

2. CN時代に向けたコミュニティーガスの
   在り方に関係する情報の収集及び紹介

3. 経営基盤の強化

（一社）日本コミュニティーガス協会

１．ガス事業法遵守に向けたフォローアップ

（１）ガス事業法における手続等の周知・徹底

（特にガス小売供給約款変更時）

ガス事業法改正後７年が経過したが、法第１４条（供給条件の説明及び書面の交付）及び第１５条（供給契約締結後の書面交付）につき、理解に不安がある事業者が散見される。ロシアのウクライナ侵攻、急激な円安等による諸物価の高騰等により、料金改定を行う場合には、第１４条及び第１５条の適切な実施が必要となるため、講習会等で再度注意喚起するほか、個別の相談にも応じていく。

支部講習会等

本年度、業務部がリアル・Webにて参加予定している支部講習会（12/1現在）

- 6月6日　東海支部　約款の変更　篠宮
- 11月12日　北海道支部　液石法省令改正を受けて　鈴木
- 11月13日　沖縄支部　約款の変更　篠宮
- 12月13日　四国支部
- 1月30・31日　中国支部
- 2月18日　九州支部
- 2月18日　東海支部
- （検討中）　北陸支部

＊講習内容は、「ガス小売契約（約款）の変更」について　「Q＆A」発刊された場合は、「Q＆A」優先

自由化団地に関する相談対応

1．**新規社宅に供給するが供給設備を施主に無償貸与して良いか？設備費はガス料金として入居者から徴収する。**

⇒ 入居者のガス料金に設備費を上乗せすることは認められず、**<u>無償貸与を行うべきではない。</u>**

ガス小売事業者は設備費を施主に請求し、入居者には設備費を含まないガス料金のみを請求する。設備費は施主が社宅料として回収すればよい。

2．**ガス工事の設計ミスから施主に不要な工事費を負担させた。工事費の負担に変えて、施主が運営する食堂のガス料金を無料として良いか？返済には2年程度必要と思われる。**

⇒ ガス事業法の問題ではなく、社内問題と思われる。ガス料金は正しく請求し、負担すべき工事費の金額・支払方法は別途決めるべき。

3．**ガス代金をコンビニ払込票にてお支払いしていただいているお客様について、コンビニ払込票発行手数料を頂くように変更しようかと考えている。**

⇒ 約款の変更は必要（行政への届出不要）。14条・15条の説明と書面交付も必須。

自由化団地に関する相談対応

４．コミュニティーガス団地の定期報告書の一覧及び申請書・届出書の記入例が欲しい。

⇒ 定期的な報告書類については、協会HP⇒「会員情報」⇒「資料ダウンロード」の「2021.02.10」を確認してください。申請書・届出書の記入例は2023年3月に発刊しているので所属支部事務局に確認して頂きたい。

５．保証金について、預かり期間の変更、利息を付けない等の変更は可能か。

⇒ お客様の不利となることもあり、法第14条・15条で丁寧な説明が必要となる。

６．旧簡易ガス団地の料金体系を液石法の集合料金にあわせたい。
かなりの値上げになりますので、新たに入居された方のみに対象とする場合に供給約款はどのように変更すればよいか。

⇒ 前提として、液石料金も原料費調整制度を行っていない固定単価であればそれに合わせることは不可です。合わせるためには、液石販売料金が原料費調整を行っていることが必要です。
簡易ガスの料金を改定する場合、値上げに対する根拠が必要となる。
自由料金メニューを設けるのは可能だが、一つの団地で供給約款料金を2つにするのは不可。

自由化団地に関する相談対応

7．（共通）コミュガスの料金体系は全国一律か？あるいは同じ地域でも高い安いがあるのか？

⇒ 従来は規則に従って料金算定を行っていたが、それでも団地の建設時期や規模により料金は異なっていた。現在は料金が自由化されており、さらにバリエーションが増えている。

8．.液石法の省令改正により、コミュガスでも三部料金制を導入すべきか？

⇒ 液石法とガス事業法は異なる法律であり、直接影響されることはない。ガス事業法が適用されるコミュガスの料金が自由化され、一方で液石法が省令改正されたことにより、コミュガスで設備の無償貸与等ができないか期待する向きもあるが、コミュガスのガス小売供給約款では、配管費用は需要家負担と明記しており、このルールは堅持されているものと理解している。したがって、三部料金制にしても設備費用に該当する金額はないはずです。ガス器具等を貸与する場合には別途契約が必要です。

9．CIFリンクで原料費調整を行っているが、内航運賃上昇分を値上げしても良いか？

⇒ 料金は充填所又は団地の貯槽到着価格をベースに計算されています。
料金算定をやり直せば当然加味されますので、仕組みを理解して料金を算定しなおすことを検討して下さい。

10．料金改定の際の書面交付の回数と改定スケジュール

⇒ Ｑ＆Ａ＃３６（添付）をベースに回答

自由化団地に関する相談対応

11. 検針日を変更したいが、日割り計算は必要か？

⇒ 約款の定めに従い、日割り計算不要の範囲で変更することを勧める。併せて料金支払期日を変更する場合には14条15条の確実な実施と丁寧な説明が必要となる。

12. １棟70戸以上の集合住宅において、需要家を分割し、70戸未満になるよう、複数の事業者でガスを供給する場合はガス事業法違反となるか？

⇒ ガス事業法違反とはならないが、限りなく脱法行為に近い。また料金の適正さや故対応に問題が発生しかねない。協会としてはお薦めできない

13. 再三ガスの閉開栓を要望する需要家がいる。どのように対処すべきか？

⇒ 約款を改定して、需要家の要望による開閉栓及び料金未払による開閉栓については有料化することを勧める。事案は別送同様の利用頻度であり、基本料金の日割りも行わなず、開栓時には器具方法もある。

14. 周知文書（ガスとなかよく、ガス使用についてのご案内）のベトナム語バージョンはあるか？

⇒ 協会では日本語バージョンのみ提供している。

1．ガス事業法遵守に向けたフォローアップ

（２）経過措置料金規制団地への継続的な対応支援

ガス事業法改正後、自由化団地の比率増あるいは担当者の交代等により、経過措置団地での対応と自由化団地における対応が混乱している例が見受けられる。特に供給地点が増加する際の取扱いは異なるので、注意を促していく。

経過措置団地に関する相談対応

5月29日　ブレインジェネシス来社　BJ社　標準係数の改定に対応できない
6月11日　BJ来社　BJ社　メンテナンス契約は今年で解約したい。
⇒(協)　少なくとも来年末までお願いする。
6月19日　けんじゃのいし総会出席
(協)　料金算定システムのメンテナンスを引き受けることはできるか?
⇒ (け)　対応可能。
⇒ (協)　BJ社と再協議後、連絡する。
6月24日　BJ来社　BJ社プログラミング言語も古く、今後ともメンテナンスを引き受けるのであれば、ソフトの全面改定が必要。費用は約10百万円？
7月19日　けんじゃのいし　原社長来社。
7月25日　BJ社⇔けんじゃのいし協議　2024年末での移管に合意。
11月7日　けんじゃのいし　原社長来社　料金算定ソフト修正要の説明あり
11月25日　BJ来社　けんじゃのいしとの「著作権譲渡契約書」についての説明あり
（11/22付けでの契約予定）

1．ガス事業法遵守に向けたフォローアップ

（３）Ｑ＆Ａ（業務編）及び申請書・届出書記載例（業務編）のフォロー

申請書・届出書記載例を令和５年３月に発刊し、支部の求めに応じて、令和５年度の支部講習会において解説を行い、理解していただいた。今後も疑問・質問等に対応していく。

懸案のＱ＆Ａ（業務編）も発刊の準備を行っており、発刊され次第、講習会のテキストとして活用を図る。

Q＆Aの取り進め

4月10日　ガス市場整備室に「序章」修正版送付

4月10日　印刷会社に「序章」「Q&A」仮版を手交し、印刷見本の作成を依頼

5月　8日　ガス市場整備室訪問。新小売担当の河西室長補佐に「Q&A」の早期チェックを依頼。

6月20日　修正版等につきガス市室と打ち合わせ

7月　ガス市場整備室発レター

「ガス小売事業者が行う設備等の無償提供等について」対応

8月7・30日、9月11日　Q＆A協議（局の意見にも対応中）

9月27日　印刷業者と図表イメージについての打ち合わせ

10月23日、11月6・20日　Q＆A協議（局の意見にも対応中）

11月25日　印刷会社と図表イメージについての打ち合わせ

11月27日　最終版をガス市場整備室へ送付

２．ＣＮ時代に向けたコミュニティーガスの在り方に関係する情報の収集及び紹介

（１）グリーンＬＰガス推進官民検討会へのオブザーバー参加、会員事業者への情報提供

グリーンLPガス推進官民検討会

- 10月21日　第7回（専務・鈴木）　次世代燃料」の取組み（日置室長）、
  各PJ進捗報告、
  LPGのCNロードマップ（日協）
  rDMEの供給（三菱ガス化学）

２．ＣＮ時代に向けたコミュニティーガスの在り方に関係する情報の収集及び紹介

（２）福島県南相馬市におけるコミュニティーガスへの水素混焼実験の進捗状況把握

水素混焼実験

- 7月22日　NEDO成果報告会用のポスター資料入手
  2025年1月現地での燃焼実験を開始目標
- 11月26日　日本ガス協会と情報共有

２．ＣＮ時代に向けたコミュニティーガスの在り方に関係する情報の収集及び紹介

スマートシティをはじめＺＥＨ・ＺＥＢ等に関する情報を収集するとともに、ＣＮ時代を見据え、分散型エネルギーの代表であるコミュニティーガスの在り方を検討

スマートシティ・ZEB・ZEH

建築物の省エネ性能表示制度告示＆ガイドライン改正案
パブコメ(6/28～7/27)

9月24日　第1回　省エネ基準説明会(WEB)
10月8日　第2回　省エネ基準説明会(WEB)

3．経営基盤の強化

（１）コミュニティーガスの認知度向上

①　住宅建築関係団体との需要開発に資する情報交換継続

②　液石専業事業者に対するガス事業法のコミュニティーガス事業に関する情報提供

③　需要家に対するコミュニティーガス認知度向上施策継続　⇒　今年度は「お客様クイズキャンペーン」を企画

住宅建築関係団体

- 2025年5月　ウィズガスCLUB施設見学会
  建築関係団体9団体＋ウィズガスクラブ6団体

液石専業事業者

認知度向上施策

- クイズキャンペーン実施見送り⇒代替案検討
- ポスター原画　協会HPに掲示

3．経営基盤の強化

（２）コミュニティーガスの需要促進

①　建替・リフォーム時のガス需要確保と機器販売促進等のための情報提供

②　会員事業者による顧客接点強化活動の推進支援

③　新たな普及促進につながる情報提供

ガス需要確保と機器販売促進①

3月27日　コラボ作成パンフレット「365日、快適でカーボンニュートラルな暮らし」の購入方法等を協会HPに掲載

4月8日　全国自治体のエネファーム補助金情報を協会HPに掲載

4月9日　コラボ＃2EJ施工＆PR　SWG（篠宮）

4月11日　高効率給湯器補助金に関するHPの更新を通知

4月22日　コラボ＃2EJ説明会SWG（鈴木）

4月23日　日団協需要開発委員会（篠宮）

4月24日　コラボ＃3EJ普及推進WG（鈴木）

5月 9日　コラボ＃3EJ施工＆PR　SWG（篠宮）

5月27日　コラボ＃3EJ説明会SWG（鈴木）

顧客接点強化活動推進支援②

6月 3日 日団協需要開発合同セミナー（ZOOM）
6月 5日 コラボ＃４EJ施工＆PR　SWG（篠宮）
6月10日 コラボ＃３EJ普及推進WG（鈴木）
6月18日 日団協需要開発委員会（鈴木）
7月 4日 コラボ＃４EJ説明会SWG（鈴木）
7月11日 コラボ＃５EJ施工＆PR　SWG（鈴木）
8月 7日 コラボ＃６EJ施工＆PR　SWG（篠宮）
10月 1日 コラボ＃５EJ説明会SWG（鈴木）
10月22日 日団協需要開発委員会・見学会
10月24日 コラボEJ販促WG（鈴木）
11月19日 〃 ＋デコ活（鈴木）
11月29日 〃 ＋デコ活（鈴木）

新たな普及促進

家をつなぎ、街を創る
コミュニティーガス

2024年度
第4回業務委員会
資料№9-2

2025年度　本部年間主要行事予定表

2024年11月8日 現在
一般社団法人日本コミュニティーガス協会

		定時総会	理　事　会	常任理事会	業務委員会	技術委員会	事務局会議	そ　の　他　委　員　会
2024年度	2025年１月		１７	１７	１７	１７		１７　総務委員会
	２月						２０	
	３月		１４	１４	５	６		１４　総務委員会・保安委員会
2025年度	４月							
	５月		１５	１５	９	８		ＷＥＢ開催 １５　表彰選考委員会・総務委員会・（正副会長会議）
	６月	１８	１８	１８			１９	
	７月				９	１０		
	８月							
	９月		P	P				
	１０月				９～１０	１６～１７		
	１１月						２６	
	１２月				１０	１１		
	2026年１月		１５	１５	１５	１５		１５　総務委員会
	２月						１９	
	３月		１３	１３	４	５		１３　総務委員会

（注）１．　*印は地方開催を示す。
　　2025 ［開催地］ *理事会、常任理事会：　　*業務委員会：関東　　*技術委員会：沖縄
　　２．　現在、確定しているものは、＿＿＿＿で示した。
　　３．　２０２５年度経済産業大臣表彰式は、２０２５年１１月１３日（木）開催予定。